

## 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算      支出科目    款：教育費    項：教育総務費    目：教育指導費

### 事業名    県立高校生海外型農業実習推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会    学校支援課    産業教育係    電話番号：058-272-1111 (内 3881)

E-mail：[cl7782@pref.gifu.lg.jp](mailto:cl7782@pref.gifu.lg.jp)

1    事業費    8,994 千円 (前年度予算額： 8,994 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,994	0	0	0	8,994	0	0	0	0
要求額	8,994	0	0	0	8,994	0	0	0	0
決定額	8,994	0	0	0	8,994	0	0	0	0

## 2    要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年度及び令和4年度に限り休止している農業高校生海外実習派遣事業において、生徒が海外での農場実習で身に付ける予定であった学習内容を、一部もしくは可能な限り国内(農業高校農場)での代替実習で身に付けられるよう、実習環境の充実を図り、本県の農業を担う若手農業経営者のリーダー育成を臨時的に継続する。

### (2) 事業内容

海外実習派遣事業で学ぶ予定であった農業の知識・技術を国内(学校農場)で可能な限り学ぶことが出来るように、省力・機械化などのスマート農業への対応、IoT化の推進農業の国際水準 GAP・HACCP 農場への対応、岐阜県ブランドの創出による農業のグローバル化への対応、有機農法や環境に配慮した農業による持続性農業への対応など、海外型の農業実習を推進できるように環境整備を図る。

### (3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	1,750	種子、農薬、農業資材等
燃料費	50	集約施設園芸用の温室暖房燃料
修繕料	4,560	集約施設園芸用の制御装置、農業機械等の修繕
飼料費	650	研究、学習に必要な飼料
役務費	100	市場出荷手数料、牛登録料・予防接種等
原材料費	84	地域ブランドを強化できる商品開発原料等
備品購入費	1,800	IoT機器等の環境整備等
合計	8,994	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針1 ぎふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

目標3 国際理解教育の充実とグローバルに活躍する人材の育成

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 国際感覚を身に付け、広い視野に立って積極的に農業に取り組む地域の担い手を育成する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2年度	R3年度	R4年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
①						%
②						%

### ○指標を設定することができない場合の理由

新型コロナの影響によりやむを得ず休止する農業高校生海外実習派遣事業の目的を、出来る限り代替する臨時的な事業であるため、指標の設定になじまない。

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	本来、海外で学ぶ予定であった集約的な農業技術、国際基準に則った生産・流通等について、その一部をグローバルな視点から代替的に学習するための環境の充実を図った。また、本事業での学習を通じ、本来海外研修を希望していた生徒（主に1・2年生）の目的意識を絶やすことなく、本県農業の担い手育成を臨時的に継続することができた。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>従来の派遣事業においては、派遣生の約3割が農業自営者、約5割が農業に関連する公務員、組合、企業等への従事等となっていることから、本来の事業目的の一部を達成できるように、事業内容を臨時的に変更して実施する必要がある。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>生徒がグローバル GAP の認証に取組み、国際認証を取得するなど、農業の国際化に対応できる学習環境の充実につながっている。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>コロナ感染状況により派遣事業としての実施も想定することとし、効率的な事業実施方法としている。</p>

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 安全に渡航ができる状況になれば、本来の農業高校生海外実習派遣事業として実施する。</p>
---

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 本県の農業人材を育成している本事業は、毎年確実に成果を上げていることから県民からの評価も非常に高い。したがって、新型コロナウイルス感染症の終息を見極め、安全に渡航が可能になった段階で、早急に本来の事業である農業高校生海外実習派遣事業として実施すべきである。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	